

ふらっとめくる愛知川宿

② ゆめまちテラスえち (旧愛知郡役所)



ゆめまちテラスえちは1922年に竣工された旧愛知郡役所であり、近畿地方で大正期に建てられた作例の唯一の遺構となっています。"曳家(ひきや)"という技術を用いて、2018年に修復完成し、今の建物となっています。修復前に使える材はそのまま利用しつつ、耐久性を高め、竣工当時の様態を現在に伝えています。

1階には「近江上布」を中心とした麻織物のショップとなっています。

③ えちがわ 愛知川びんてまりの館



愛知川にびん細工手まりが持ち込まれたのは、江戸時代末期に近江商人の家から嫁いだ女性が嫁入り道具として持参したと伝えられています。日本で本格的にびんが量産される明治20年代頃から裁縫塾を中心に一般の女性にびん細工手まりがひろがり始めたようです。

⑦ いせみち 伊勢道

東海道と中山道を結ぶ脇道、間道としての性格を持っています。庶民の伊勢参りや多賀参りに利用された信仰の道です。(愛知川小松屋の東に入って東門堂・清水・小田刈を通り愛知川を渡る)

⑫ とよみつじんじゅ 豊満神社



【四脚門 国指定重要文化財】

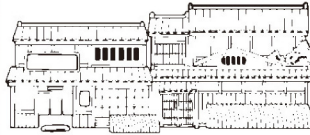
豊満神社には神功皇后の一軍がこの辺りの竹竿で軍旗を作り戦場に持参して勝利を収めたという伝説があります。そのため、境内の竹を旗竿に用いたならば必ず戦勝するとして源頼朝や豊臣秀次など多くの武将がこの竹を好んで求めたり、戦勝祈願をしたことにより勝運の「旗神さま」として世に知られるようになりました。



⑬ とよみつじんじゅさんどうどうひょう 豊満神社参道 道標

旗神豊満大神と記されており、豊満神社参道であることをしめしている。

中山道 愛知川宿に關係の深い「お菓子屋」と「旅籠屋」



江戸時代、愛知川宿は中山道沿いの宿場町として発展し、多くの旅人が行き来し、栄えていました。なかでも愛知川宿では「一漢茶(いっけいちや)」という煎茶が有名で茶屋やお菓子屋が立ち並んでおり、旅人が休憩や宿泊をする旅籠屋なども多くあったと言われています。

この愛知川宿と関わりが深いお菓子屋と旅籠屋は、景観や商いを覚えて現在まで暖簾を守り続けているお店もあり、昔の愛知川宿の面影を今に残しています。

旅籠屋(はたごや)とは

愛知川宿には、玉屋・喜楽屋・日乃出屋・菊屋・味吉屋・小松屋・ふじ屋・京屋・丸屋・旅籠屋がありました。1840年代丸屋宿泊料は153文(1文として25円)、今の金額で3,825円ほどでした。

今もある「お菓子屋」と「旅籠屋」

【お菓子屋】しろ平老舗・吉福庵・御幸餅商舗
【旅籠屋】味吉屋
※「竹の子屋平八」は現在、「竹平樓」という料亭となっています。
※「愛知川ちよっと昔の旅一セピア色の記憶を訪ねて」(平成14年3月30日発行)参照

中山道周辺のオススメお立ち寄りスポット!

⑬ ののすておりがみ屋 ししゅうや 刺繍屋ポイトコセ



ののすてとは、愛知川南野々目にあった「野々捨商店」に由来。近江上布の染物技法の一つである「型紙捺染」。その型紙の模様をヨシ紙にプリントして折り紙にした、環境に優しいアイテムです。

Open : 11:00~18:00
定休日 : 火・金
TEL : 0749-29-1948

⑮ しろへいろうほ しろ平老舗



愛知川宿の北口に、慶応元年(1865年)創業の和菓子店「しろ平老舗」があります。店内に入ると20種類以上のお菓子が並んでいますが、その中でも「米どころ」という(もなか)と「金相大福」が大変美味しいですよ。

Open : 8:30~18:30
定休日 : 木 あり
TEL : 0749-42-2733

⑯ おおみしょうにんてい 近江商人亭 (旧田中新左衛門邸)



麻織物、蚊帳商いをしていた豪商田中源治が建てた料亭で、現在は料亭として使われています。(国指定登録有形文化財)回遊式の気品ある庭園・名石を眺めながら、ゆったりとしたひとときを楽しめる。

Open : 11:30~15:30 (LO)14:00
17:00~22:00 (LO)19:30
定休日 : 水 あり
TEL : 0749-42-3131

愛知川宿へのアクセス方法

▶車をご利用の場合

※湖東三山館スマートインター
チェンジを降りてすぐ
大阪から1時間26分
名古屋から1時間5分

P 駐車場

中山道愛知川宿 駐車場
〒529-1331 愛知郡愛知町愛知川13-2
ポケットパーク
〒529-1331 愛知郡愛知町愛知川1331

▶J.R.近江鉄道をご利用の場合

※JR能登川駅下車
バス(角能線)か
タクシーに乗換え
京都から最短54分
名古屋から最短52分

なかせんどうえちがわしゅく 中山道愛知川宿

江戸時代に江戸と京都を結ぶ中山道の65番目の宿場町として栄えた愛知川宿。

この愛知川宿は、家数199軒、本陣1軒・脇本陣2軒、旅籠数28軒もあった、にぎやかな宿場町であったようです。

享保14年(1729)には、ベトナムから来た象も滞在したとされています。

文久元年(1861)には、14代徳川家茂に嫁ぐ和宮が宿泊し、行列は警護や人足を含めると総勢3万人に上り、行列は50kmほどになったとされます。

和宮が通る沿道では、住民の外出・商売が禁じられた他、行列を高めから見ること、寺院の鐘等の鳴り物を鳴らすことも禁止され、火の用心が徹底されるなど厳重な警備が敷かれました。

